

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

大牟田市立白川小学校

教諭 竹崎 衣和那

1 単元名 「安心して暮らせる白川校区をつくろう ～ジュニア民生委員・児童委員活動～」

2 単元の目標

- 水害時の避難上での留意点，日常的な備えなど，防災上の知識について理解し，高齢者に伝わるように水害対策ブックにまとめることができる。(知識及び技能)
- 人口推移のグラフや，自分の経験，新聞記事をもとに課題を見いだし，地域の高齢者が安心して暮らすことができるようにするための方策を考えたり，考えたことについて水害対策ブックを通して伝えたりすることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- 白川小学校校区で暮らす人たちが安心して暮らせるようにしたいという目的意識をもち，意欲的に高齢者と関わったり，水害について学んだことを水害対策ブックにまとめたりすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では，「ジュニア民生委員・児童委員への任命」，地域の高齢者との出会い，「高齢者が水害に安心して備えるための資料づくり」を教材として取り上げる。

白川小学校校区の民生委員や社会福祉協議会の方を招き，活動の意義を学ぶことで，その活動への意欲を高めることができる。また，ジュニア民生委員・児童委員としての名刺を地域の高齢者の方に配る活動を通して，地域の実態を把握したり，これからの活動に具体性をもたせたりすることが期待できる。さらには，高齢者とのコミュニケーションを通して，人とのつながりの心地よさや，関係を深めるコミュニケーションのスキル向上も図ることができる。

また，大牟田市は7月に豪雨の災害に見舞われ，高齢者の死者が出ているということを取り上げる。このことを通して，水害に対する確かな知識を主体的に得ようとするとともに，得た知識を高齢者の身体的特徴や生活環境に適応させて提案したり，高齢者の心に届くような防災の表現物を作成したりするなど，より相手意識をもって活動することができるようになるよさがある。

(2) 児童観

本学級の児童は，第5学年において，当時の6年生と行事の案内を地域の高齢者の方に配る活動をしてきている。この活動を通して，ジュニア民生委員としての振る舞いを学んできている。また，縦割り活動を通してジュニア児童委員として後輩に接する姿も見ている。さらには，引継ぎ式の際には，ジュニア民生委員・児童委員活動の意義，喜びなどを聞き，活動への意欲をもっている。

また，社会的な事象や身の回りの実態などから課題を見つけたり，友だちとの対話を通して考えを練り上げて具体的に実践することができたりすることができるようになったこの期に本課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、大牟田市の人口推移及び、年齢構成を示したグラフ（今後20年も予想されたもの）を提示する。このことを通して、大牟田市は人口減が進んでおり、高齢者の割合は増加傾向が続いていることに気付かせる。その資料をもとに、今後の大牟田の姿について具体的に話し合わせることを通して、まちづくりについての課題をつかませたい。また、昨年度までに先輩が取り組んでいたジュニア民生委員・児童委員活動の引継ぎ会を想起させ、意欲をもたせたい。

次に、地域の民生委員をゲストティーチャーとして招き、その仕事内容や意義を学ばせる。その上にたち、ジュニア民生委員・児童委員活動として任命することで、さらなる意欲や責任感をもたせる。また、ジュニア民生委員・児童委員に任命されたことに伴い、担当する地域の高齢者に名刺配りをすることを通して、地域の実態をつかませるとともに、担当する高齢者の力になりたいという思いをもたせたい。なお、名刺を作成する際には、相手にとって見やすいものであるという視覚的な配慮を促すようにする。また、名刺そのものがコミュニケーションのきっかけとなるように、名刺に自分の好きなもの、興味のあるものなど自分の嗜好を表現させるようにするなど、デザインの工夫についても考えさせるようにする。

そして、本年7月の水害を想起させるとともに、高齢者の被害を報じた新聞記事を提示し、自分たちにできることはないだろうかと考えさせる。その上で、現役の消防士をゲストティーチャーとして招き、水害への備えについて学ぶ機会を設ける。また、学んだことを実感するために、着衣水泳でその学びの効果を実感させるようにする。それらの活動を踏まえ、高齢者向けに、水害に安心して備えるための資料づくりをする。

さらには、これらの活動を通して、地域づくりに直接貢献できたということを振り返らせ、さらに自分たちにできることはないだろうかと話し合わせることを通して、これからの活動にもつなげていくようにする。

4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>①水害時の避難上での留意点、日常的な備えなど、防災上の知識について理解している。</p> <p>②学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵などを用いてそれらに関係づけながらまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>①資料をもとに課題を見だし、安心できるまちづくりのための方策を考えることができる。</p> <p>②水害への対策について学んだことや考えたことを水害対策ブックに表現したりしている。</p>	<p>①校区の人たちが安心して暮らせるようにしたいという目的意識をもち、意欲的に高齢者と関わろうとしている。</p> <p>②名刺配りを通して、地域で担当する高齢者の実態を意欲的につかみ、自分にできることを模索しようとしている。</p> <p>③水害について学んだことを地域の人に納得してもらえるように発信しようとしている。</p>

5 ESD との関連

(1) 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

・相互性

現在の地域の様子は、そのまま未来の地域の姿であり、自分や身内の者が年老いた時に、安心が担保されていない地域となっている可能性があるということ。

・公平性

独居の高齢者は地域の中で孤立しがち。これを見過ごせば恵まれた環境にある人のみが安心して過ごせるまちとなってしまうということ。

・連携性

これからのまちは、地域の民生委員や身内だけで高齢者を支えるのではなく、地域全体で支えていくことが大切であること。

(2) 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・未来像を予測して計画を立てる力

人口推移グラフをもとにこれからの大牟田市を予測し、ジュニア民生委員・児童委員として安心・安全なまちづくり一端をいかに担うかを計画する。

・コミュニケーションを行う力

地域の高齢者が安心して過ごせる、自分たちにできるまちづくりについて、意見交流を通して自分の考えをつくりあげる。

・つながりを尊重する態度

地域の高齢者や、地域の民生委員、消防士などとの関わりを通し、様々な人とのつながりが豊かな学びになっているということを実感し、尊重しようとする。

・進んで参加する態度

地域の高齢者のために自分にできることはないかと考え、意欲的に関わりをもとうとしたり、考えをつくろうとしたりして、地域社会に貢献しようとする。

(3) 本学習で変容を促す ESD の価値観

・世代内の公正

自分たちだけでなく、高齢者や若い子どもなど、同じ時間を過ごす皆が安心して過ごせるまちづくりが大切である。

・人権・文化を尊重する。

災害弱者も皆、安心して過ごせるように努めなくてはならない。

・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

自分たちの世代だけが幸せであることが、将来的にも幸せであるとは限らない。

(4) 達成が期待される SDG s

3 すべての人に健康・福祉を

1 1 住み続けられるまちづくりを

6 展開の概要（全16時間）

学習活動	○学習への支援	○評価 ・備考
<p>1 大牟田市の人口推移のグラフをもとに、大牟田市の課題と今後の活動の見通しをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人がどんどん少なくなっていく。 ・自分たちの親は誰か見てくれるのかな。 ・先輩たちのように民生委員活動が将来も続いていけば安心だ。 	<p>○大牟田市の人口推移のグラフ（今後20年先まで予測したもの）を提示し、特に高齢者と若者の割合に着目させ、課題を明確にさせるとともに、先輩たちが行ってきたジュニア民生委員・児童委員の活動の意義を改めて考えさせるようにする。</p>	<p>イ① (思判表)</p>
<p>2 民生委員の活動内容について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にとっては欠かせない仕事だ。 <p>3 高齢者に名刺配りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話がはずむように、自分の好きなものを名刺に載せよう。 ・見やすいように大きな字で書かないと。 <p>4 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつまでも見送ってくれて嬉しかった。 ・他にもできることはないだろうか。 	<p>○民生委員にその仕事について説明してもらい、活動の意義をつかませる。</p> <p>○地域の実態をつかませるとともに、高齢者との関係をつくらせるために、名刺渡しを行うことを提案する。</p> <p>○今後の活動へと連続発展させていかなるために、交流を通して得た思いを想起させる。</p>	<p>ウ① (主体的)</p> <p>ウ② (主体的)</p>
<p>5 高齢者と水害について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が2人亡くなっている。 ・自分たちも怖かった。 ・水害について調べて伝えられないかな。 <p>6 「水害対策ブック」を作成する。</p> <p style="text-align: center;">校區に住む消防士さんの話</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">国語科「私たちにできること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人は膝くらいまで浸水していたら避難は難しいと言われていたから、高齢者は脛あたりまで水が来たら危ないかもしれないね。 ・自分たちは大丈夫と思われるかもしれないから、ここ数年で降水量が増えてきていてとても危険になっていることを初めに書いておこう。 <p>7 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当する後輩達のためにも対策ブックをつくって届けたいな。 	<p>○7月の水害の新聞記事を提示し、地域の高齢者のために、自分たちでできることはないかと考えさせるようにする。</p> <p>○GTを招いたり、国語科単元と関連させたりして、内容の質や見やすい構成についても意識させ、相手意識をもたせるようにする。</p> <p>○今後の活動へと連続発展させていかなるために、下級生にも伝えていくという視点をもたせるようにする。</p>	<p>イ① (思判表)</p> <p>ウ② (主体的)</p> <p>ア①② (知・技)</p> <p>イ② (思判表)</p>